

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

Challenge, Change, Smile !

(自らの力を高め、視野を広げるためのチャレンジ、自分自身の可能性を高め、自己変革をめざすためのチェンジ、そして笑顔が絶えないスマイル)を合言葉に生徒が来たいと思う学校、来て良かったと思える学校をめざす。・・・そのために

- 1 生徒に「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させ、学力の向上に取り組む。
- 2 生徒が社会の一員としての自覚と規範意識を持ち、責任ある行動をとることができるよう生徒指導を充実させる。
- 3 生徒が学習活動・学校行事、部活動等に積極的に参加するとともに主体的に進路を選択し、豊かな自己実現を図れるよう支援する。
- 4 生徒が自らを律し他者を尊重し、思いやる心を持ち、人権や生命を尊重する精神を育む教育に取り組む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領や高大接続改革を踏まえ、主体的・協働的な学びの推進、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性」の涵養を行うための授業改善と教員の資質向上に取り組む。

- ア 授業力向上 PT を中心に、これまでの取組みを強化し、更なる授業改善に取り組む。「ICT を活用した授業展開」や「アクティブラーニング (A L) 」
- イ 各教科は大学入試制度の転換に対応するため、指導内容や指導方法、評価の見直しを図り、観点別評価を確立する。また、新しい教育課程の検討を進める。
- ウ ベル始め、授業準備を徹底し授業規律を確立することで、授業を「真剣勝負の場」とする。

*** 学校教育自己診断 (生徒) 「授業は分かりやすい」 (H30 : 49%) を 3 年後には 65% にする。

(2) 成績中位者層・成績不振者層に対する指導の充実により、基礎学力の定着を図るとともに家庭での学習習慣を確立させる。

- ア 「習熟度別・少人数展開授業」の実施や成績不振者対策を行い、生徒の学力実態・進路希望実態に応じた「わかる授業」を推進する。

*** 学力生活実態調査で、生徒のゾーン占有率を年次進行で低下させない。3 年後には B C ゾーンの低下率を - 10% とする。 (H30 : 30%)

(3) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。

- ア 英語検定・GTEC、漢字検定を利用し、朝学習を活用した学習習慣の確立をめざし、合格率の向上に取り組む。
- イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取組みを推進する。

*** 検定の合格率を 5 P ずつ向上させ 3 年後には目標級の 15P 増をめざす。

*** 学校教育自己診断 (生徒) 「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」 (H30 : 50%) を 3 年後には 70% にする。

2 自己を確立し未来を切り開く力の支援 夢や目標を持った生徒の育成

(1) 志学、道徳教育、キャリア教育、人権教育等について、「志を持ったよき社会人」として自立と創造する力を養うための、志学・総合学習実施計画を推進する。

*** コア会議が核となって検討を進め平成 30 年度試行、31 年度完成、32 年度検証できるようにする。

(2) 進路指導の充実を図る。

- ア チャレンジ講習 (毎週 7 限) を有効活用し、進学希望者等に対する指導を分掌・教科が主導し進学講習体制の充実により、生徒の進路実現に取り組む。
- イ 就職希望者に対しては、面接指導と共にマナー・服装・態度・言葉遣いについての指導を強化し希望先への内定率 100% をめざす。
- ウ 進路指導部が中心となりキャリア教育を見直し、3 年間のトータルデザインを確立する。

*** 公募推薦等受験、一般受験での合格率を高める (H30 : 13%・4%) 3 年後には 35%、20% をめざす 就職一次内定率 100% をめざす

(3) 規律ある高校生活の実現をめざし、「人間力」を育成する。

- ア 「薬物乱用防止」「情報リテラシーの育成」特に大麻等の乱用防止や情報モラルの育成に努め、生徒が加害者にも被害者にもならないように取組みを行う。
- イ 挨拶・服装・髪型・装飾品等の指導強化に取り組む。指導にあたり学年間格差をなくす。
- ウ 遅刻者数の減少に取り組む。

*** 学校教育自己診断 (保護者) 「生徒指導の方針に共感できる」生徒「先生は協力して生徒指導にあたっている」 (H30 : 68%44%) を 3 年間で共に 80%55% にする。遅刻者数 (H30 : 5329) を 3 年間で半減させる。

(4) 「元気な学校づくり」特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。

- ア 必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導する。
- イ 様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝えることに努め、部活動への参加・加入率を高める。
- イ 学校行事で「人を育てる」生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定し、「学校が楽しい」と実感できるものにする。
- ウ 「港高校部活動の在り方に関する方針」に則り、合理的でかつ効率的・効果的な活動が行えるよう取り組む。
- エ 校内美化に努め、さらに快適で過ごしやすい環境づくりを進める。

*** 部活動加入率 (H30 : 58%) を 3 年間で 65% にする。

*** 学校教育自己診断 (生徒) 「港高校に行くのが楽しい」「生徒であることに誇りを持っている」 (H30 : 64%34%) を 80%・60% にする。

(5) 不安や悩み、障がい等のある生徒への支援の充実

教育相談体制や支援教育体制の充実、保護者や関係機関との連携を強化し、情報共有に努め、必要な生徒に適切な支援・指導を行う。

*** 学校教育自己診断 (保護者) 「心身の悩みについて教育相談できるシステムが学校にあることを知っている。」・生徒「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」 (H30 : 40%、50%) を 3 年間で 65% 以上にする

(6) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む

- ア 「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ 人権尊重の社会づくりを進めるために、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。
- イ 「グローバル人材の育成」文化や習慣の違いを尊重する心をはぐくむとともに、コミュニケーション能力の育成をはかる。

3 学校運営体制の強化・改善 信頼される魅力ある学校づくり

(1) 学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。「コア会議」、運営委員会が企画検討の中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。

- ア 各分掌が主導で校務にあたり、プロパー・ヘルパー制という考え方は廃止。学年は学年団として機能し担任団という考え方は廃止。
- イ 各分掌は継続性・連続性のある 3 ヶ年計画を作成し、関係協力部・学年と協力して校務にあたる。
- ウ 「スクラップアンドビルド」の実践 実情に応じた、校務体制や学校運営組織を再構築し、仕事の効率化につなげる。

*** 学校教育自己診断 (教員) 「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」 (H30 : 37%) を 3 年間で 60% とする。

(2) 「頼りにされる校務力」の育成 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る

初任者等教職経験年数の少ない教職員の資質・能力の向上、学校経営の中核を担うミドルリーダーの育成を図る校内研修を充実すると共に中堅・ベテラン教員が初任者及び若手教員の育成を担当することで自らの力量を高める。(OJT)

(3) 広報活動と地域連携の充実

- ア ホームページの適時更新などできるだけ多くの情報発信に努める。中学校訪問を継続し広報活動を活発にする。
- イ 地域連携を推進し、地域から愛される学校をめざす。創立 110 周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携態勢を推進していく。

*** 学校教育自己診断 (保護者) 「港高校の HP をよく閲覧する」 (H30 : 51%) を 3 年間で 65% とする。

(4) 教職員の長時間勤務の縮減 時間外労働縮減に向けた取組みの促進や勤務時間管理及び健康管理を徹底。

*** 時間外労働時間において、3 年後には 20% 以上削減とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見																												
<p>回収率</p> <table border="1" data-bbox="128 344 942 501"> <thead> <tr> <th></th> <th>1 年生</th> <th>2 年生</th> <th>3 年生</th> <th>全学年</th> <th>回収率</th> <th>前年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>242</td> <td>261</td> <td>275</td> <td>778</td> <td>91.4%</td> <td>-2.6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>152</td> <td>165</td> <td>163</td> <td>480</td> <td>56.6%</td> <td>-0.2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>48</td> <td>92.3%</td> <td>+14.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>教職員の回収率が 43 から 48(+14.1%)となった。生徒・保護者の回収率はそれぞれ -2.6・-0.2%となった。すべてにおいて回収率をUPさせたい。</p> <p>実施対象 (教職員・1～3年生全生徒・1～3年生全保護者)</p> <p>生徒向け、保護者向けには 16 の質問項目を設定し、授業や進路指導、生徒指導や教育相談体制、学校行事などについてアンケートをとった。また、教職員へは 26 の質問項目で振り返りのアンケートをとった。保護者からのアンケート回収率は 60%を超えず、教育活動への関心の低さが伺える。</p> <p>集計結果については、生徒・保護者・教職員の順で、おおそ高い肯定回答が寄せられ、一定の教育活動の評価や満足度が確認できた。教職員の集計結果は、学校組織体制の見直しや教員間での信頼関係の構築など、前向きな意見が見られた。</p> <p>集計結果については、生徒や保護者へフィードバックをし、教職員については昨年度との比較や今年度の分析と共に配布をし、教育活動の見直し・振り返りを図った。さらに、学校HPに結果をアップし、地域・保護者にも伝えた。</p> <p>生徒アンケートでは、</p> <p>【学習面】</p> <p>「授業で、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」(60% / +10%) が 10%肯定的な答えが増えた。「先生は教え方にさまざまな工夫をしている」(71% / +0%) 「将来の進路や生き方について考える機会がある」(72% / -1%) 「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」(62% / -1%) などの設問で肯定的な回答が多いが「学校の授業はわかりやすい」(51% / +2%) の肯定値が低く課題ではあるが、若干増加した。研修、相互授業見学、他校見学、補習、講習等、努力と工夫を重ねていく。</p> <p>【授業以外】</p> <p>「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」(69% / +2%) 「保護者あての学校からの配布物は保護者に手渡している」(66% / +1%) では肯定値が高い生徒が多い。特にこのことは、家庭との連携を取っていくうえで大切なことで、さらに肯定値を上げていく必要がある。</p> <p>【否定的な意見が多い項目】</p> <p>「港高校の生徒であることに誇りを持っている」の肯定値が低い(33% / -1%) 「学校の規則やルールをよく守っている」(46% / +8%) が 8%肯定的な答えが増えた。「先生は協力して一致した指導に当たっている」(41% / -3%) 「先生が行っている指導には納得できる」(47% / -3%) の肯定値は低い。さらに、「清掃活動はきちんと行われている」(54% / +2%) の肯定値が低いことは、改善していかないとはいけない。</p> <p>保護者アンケートでは、</p> <p>「子どもは学校に楽しく通っている」(85% / +1%) 「通知票を各学期、各考査ごとに確認している」(83% / -2%) 「学校を訪れた時、清掃活動が行われていると感じる」(75% / -5%) 「学校行事では、子供は楽しそうにしている」(85% / -1%) の質問に対して肯定値が高い。保護者は肯定的に見ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しかし、生徒本人達の感覚と温度差がある。 <ul style="list-style-type: none"> 生徒 「行くのが楽しい」 肯定 60% / -4% 保護者 「楽しく通っている」 肯定 85% / +1% 教職員 「生徒は学校生活を楽しんでいる」 肯定 77% / +0% <p>「HP を閲覧するときがある。」(45% / -5%) が昨年度より 5%肯定値が下がった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者は学校に協力的な視点を持ちある程度信頼を寄せていただいている。この評価に安心することなく、保護者、地域のご意見をいただきながら努力していかねばならない。 <p>教職員アンケートでは、</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教育活動について日常的に話し合っている」 (85% / +15%) 「生徒の個人情報適切に管理されている」 (83% / +15%) 「授業方法等を参考にしたり検討する機会がある」 (83% / +20%) 「生徒指導の方法について共通理解できている」 (64% / +11%) 「新聞やインターネット等で情報を調べている」 (81% / +23%) 「清掃は生徒と共に実施し、きれいに保っている」 (55% / +11%) 「教育相談は整備され、担任以外とも相談することができる」 (83% / +15%) 「いじめの体制が整っており、迅速に対応することができる」 (87% / +15%) 「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能」 (45% / +12%) <p>以上の質問に対して肯定値が 10%以上上がった。しかし、には生徒と意識のずれがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「効率よく授業を進めるために ICT を活用している」 (70% / -9%) 「けがやを体調が悪くなった場合、対応する体制がある」 (70% / -8%) <p>以上の質問に対して肯定値が下がった。しかしその他の項目では 5%を超えて下がったものはない。</p>		1 年生	2 年生	3 年生	全学年	回収率	前年度	生徒	242	261	275	778	91.4%	-2.6%	保護者	152	165	163	480	56.6%	-0.2%	教職員	-	-	-	48	92.3%	+14.1%	<p>学校運営協議会からの意見</p> <p>< 第 1 回学校運営協議会 > 5 月 24 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度学校評価について ・「アンケートからみる来年度に向けての課題」について 保護者・教職員からのアンケート回収率の上昇(回収率 UP への努力) 生徒・教職員の学校の生徒指導方針についての肯定感 UP へ、清掃活動実施の肯定感を UP へ、の 3 点に特に重点を置きたい。 ・学校改革について 進学実績が 20 ポイント低下し、生徒の進路が保障できなくなりつつある現状において、生徒が進路を「自分で切り拓いていく力」を育むことを目指し、個に応じたキャリア教育及び進路開発支援を行う。ガイダンス機能の充実をめざし、ガイダンスルーム及び challenge ルームの設置を検討し、組織編制を行った。 <p>【意見交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和元年度 学校経営計画」では以下の点に特に重点を置く。 <ul style="list-style-type: none"> 成績不振で卒業・進級できない生徒をなくす。(成績不振者への講習、マスト提出指導など) 英語検定・GTEC、漢字検定の全員受検 現状アルバイトをしている生徒の割合は 50%であり、そのうち 25%は 1 年生の 1 学期中間までに、残りの 25%も 1 年生の 1 学期期末までにアルバイトを決めている。「仕方ない」では済ませない。 スクールソーシャルワーカー(以下 SSW)、スクールカウンセラー(以下 SC) の導入 保護者の不仲や虐待などにより、幼いうちから心のケアが必要な子どもが多い。(SW に報告) 昨年度の SSW は 2 学期のみの導入となったが、今年度は各学期 1 回ずつ合計 3 回の導入とする。 時間外労働の改善 何を「スクラップ」するのか。 <p>< 第 2 回学校運営協議会 > 10 月 18 日</p> <p>【意見交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校の総合的な学習の時間は何をしているのか。 第 74 期から、先行で「探求」を実施している。「自己と他者」を掲げ、自己実現と他者理解を、それぞれ、進路指導部、人権教育推進委員会と連携して、促している。さらに探求を進められるよう、改善していく。 ・生徒指導関連で、親ができる働きかけを考えていきたい。 ・男子生徒の割合が増えたから、大人しい生徒が多くなったのか。 勉強に目が向く生徒が増えたからである。 ・令和 2 年度使用教科書採択の結果 学校運営協議会の会場に令和 2 年度使用教科書を展示した。 ・「令和元年度 学校経営計画」では数値目標に特に重点を置く。 <ul style="list-style-type: none"> 「授業は分かりやすい」を 49%から 65%へ 授業見学週間など、授業改善の取り組みを行う。 「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を 50%から 70%へ 合格率を公募推薦入試では 13%から 35%へ、一般入試では 4%から 20%へ 「協力して生徒指導にあたっている」を 44%から 55%へ 教員全員で生徒指導にあたる。 「生徒であることに誇りを持っている」を 34%から 60%へ 「心身の悩みについて教育相談できるシステムを知っている」を 40%から 65%以上へ 「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」を 37%から 60%へ ・入学目的はさまざまであるため、「誇りを持っている」生徒を増やすのは難しい。 ボランティア活動が世間で主流になりつつある。「自分のためになる」ということをアピールしてはどうか。生徒が「頑張れるところ」をつくることが重要である。 <p>< 第 3 回学校運営協議会 > 2 月 14 日</p> <p>【令和元年度の状況等(学年・分掌マネジメントから)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教務部 ・朝学習の年間を通しての定着化 ・次年度行事予定の早期検討 進路指導部 ・チャレンジ講習を有効活用できた(特に数学)・相愛大学による大学見学会の実施 今後こういった機会を増やしていきたい 生徒指導部 ・模試の受験者数が増加、いい傾向・面談数を増加させたいが、教員不足がネック ・12 月に行った「社会人マナー講座」は反響で、継続していきたい ・校門での挨拶だけでなく、校内での挨拶もできるようになってきた ・遅刻件数の減少 4000 件目標(実際は 3000 件目標) は達成できそう 自治会 ・部活動の加入率が低下している 改善中(体験期間を縮小し効果をあげる) 総務部 ・内外で開催する「説明会」と「見学会」・学校図書館の運営...2F エレベーター前に黒板にて生徒の推薦図書紹介 地域との連携も今後実施 2 学年主任 ・修学旅行成功・進路指導の充実 模試を受ける人数は増加傾向にあり、進路について考えはじめている生徒が増加・化粧指導が緩まりつつある 1 学年主任 ・挨拶・身だしなみの徹底 生徒の中に意識付けはできてきたのでそれを徹底 人権教育推進委員長・道德教育のカリキュラム表を作成し、朝学等を活用しながら実施していく <p>【意見交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校門当番の必要性について 高校全体では約 65%が実施している 近隣住民との関係性のためにも教員体制で継続すべき。中学校では校長のみが実施し、他教員は他の業務に専念してもらい小学校では下校指導等でほぼ全教員が下校指導を行い、安全確認している 時間外労働など様々な観点から考えていく必要がある ・アンケート回収率の工夫について 私学では行事ごとに記入してもらい、残りは生徒に手渡して渡す 大学では講義で紙媒体を使い記入させる ウェブでは見込みが低い 港高校では「桜連絡網」を活用すべきではないか(要検討) <p>【学校教育自己診断アンケートからみる来年度に向けての課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者からのアンケート回収率の上昇(回収率 UP への努力) アンケート結果の温度差の是正(教職員・保護者と生徒の肯定感の差) 生徒・教職員の学校の生徒指導方針についての肯定感 UP へ HP のさらなる充実・更新回数 UP ・閲覧回数 UP へ 清掃活動実施の肯定感をさらに UP へ 授業理解度の肯定感を UP へ
	1 年生	2 年生	3 年生	全学年	回収率	前年度																							
生徒	242	261	275	778	91.4%	-2.6%																							
保護者	152	165	163	480	56.6%	-0.2%																							
教職員	-	-	-	48	92.3%	+14.1%																							

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確 か な 学 力 の 育 成	<p>(1) 主体的・協働的な学びの推進、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性」の涵養を行うための授業改善と教員の資質向上に取組む。</p> <p>ア 授業力向上 PT を中心に授業改善の取組を強化し、更なる授業改善に取り組む。「ICT を活用した授業展開」や「AL」について研修・研究をする。</p> <p>イ 各教科は3年間を見通した指導内容や指導方法、評価の見直しを図り、観点別評価を確立する。また、新しい教育課程の検討を進める。</p> <p>ウ ベル始め、授業準備を徹底し授業規律を確立することで、授業を「真剣勝負の場」とする。</p> <p>(2) 成績中位者層・成績不振者層に対する指導の充実により、基礎学力の定着を図るとともに家庭での学習習慣を確立させる。</p> <p>ア 「習熟度別・少人数展開授業」の実施や成績不振者対策を行い、生徒の学力実態・進路希望実態に応じた「わかる授業」を推進する。</p> <p>(3) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。</p> <p>ア 英語検定、漢字検定を利用し朝学習を活用した学習習慣の確立をめざし、合格率の向上に取り組む。</p> <p>イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取組を推進する。</p>	<p>(1) ア ・教員研修の実施、他校への授業見学や研修参加等により研究を進め、ICT 活用、主体的・協働的な学びを取り入れた授業改善に取り組む。 ・授業観察、各教科での研究授業、成果・課題の発表会と 　　いう従来の授業改善研修を発展的に解消し新たな取組を企画し実施。 ・全教員による相互授業見学をさらに発展させる。 ・授業改善のための校内研修を複数回実施 ・授業アンケート後の振り返りシートの提出を必須とし、それを活用した授業改善の取組を推進 ・AL や ICT を活用した授業を行う教員の割合を増やす。</p> <p>イ ・すべての教科で評価の仕組みを見直す ・すべての教科で指導と評価の年間計画(シラバス)を検証 ・新教育課程検討 WT を中心とした検討</p> <p>ウ 授業の場が最大の生徒指導であるという自覚の下、全教員が授業で生徒にしっかりと向き合う。指導に従わない時は、放置せず担任、副担任と連携して粘り強く学年団としてチームで指導</p> <p>・学年団単位で、授業開始前終了のルーティーンを作成 ・授業準備・机上整理についての具体的な指導方針の作成</p> <p>(2) ・生徒の学習時間の増加をめざす取組を実施。</p> <p>ア ・習熟度別少人数展開授業の効果的な展開 ・成績不振者の指名補習を学年で実施 ・不振者課題の「マスト提出指導」を学年で実施</p> <p>(3) 全員が英検 (orGTEC)、漢検の何れかの級または両方を取得する。年次進行で、3年間のデザインを確立する。</p> <p>ア ・朝学習を利用した学習形態の確立</p> <p>イ ・グループワークなどを用い、アクティブラーニング(AL) 的な授業展開を増やす。 ・他校との授業交流 ・クラス数減などで確保できる教室を有効利用する。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断(教員) ア「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に活かしている」、「授業方法等について検討する機会を積極的にもっている」(H30:58%、63%) 65%・70%に 振り返りシート提出率 (H30:100%) 100% 「教員間で授業方法について検討する機会を積極的に持っている」、「効率よく授業を進めるために ICT を活用している」(H30:63%、79%) 70%・80%以上に</p> <p>イ 「教科会において指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」 (H30:47%) 60% 「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」 (H30:50%) 60%</p> <p>ウ ベル始め実施率(授業観察時評価)100% 100%</p> <p>(2) 不振者指名補習・課題等マスト提出指導(H30は学年単位で実施3学年で行う) 「授業は分かりやすい」(生徒) (H30:49%) 60% 「教え方に工夫をしている」 (H30:71%) 75%</p> <p>(3) ア 合格者数 (H30:1年GTEC 全員受験・2年英検全員受験(2級1名、準2級12名合格)、希望者英検受験での合格者数(2級1名、準2級2名合格)1年漢検全員受験(2級1名、準2級5名合格) 全員受験に伴い合格者数向上 英検2級と準2級の合格者数50名 漢検2級、準2級合格者数60名</p> <p>イ 「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」 (H30:50%) 60%</p>	<p>(1) ア 「評価を行い次年度の計画に活かしている」 66%/+8% () 「検討する機会を積極的にもっている」 83%/+20% () 大きく肯定感がUP 振り返りシート 100% () 「検討する機会を積極的に持っている」 83%/+20% () 「ICT を活用している」 70%/-9% ()</p> <p>イ 「指導法について取り組んでいる」 47%/±0% () 「自分の考えをまとめたり発表する機会がある」 60%/+10% () 授業観察では、6~7割が行っていた。</p> <p>ウ ベル始め実施率 100% () 授業開始のルーティーンについてさらなるレベルUPを</p> <p>(2) 指名補習実施日数 不振者講習...1年6日、2年45日 3年20日 マスト提出指導実施回数...1年8回 日、2年のべ60日、3年10日 学力生活実態調査のGTZのBCゾーン低下率...1年+5%~-5%、2年+10%~0%、3年-5%~-10% 「授業は分かりやすい」51%/+2% () 「教え方に工夫をしている」 71%/±0% () 微増だが現状のままであることに満足しないので努力する必要あり。</p> <p>(3) ア 1・2年GTEC 全員受験、1・2・3年英検希望者受験(準2級以上8名合格) () 1/19 1年漢検全員受験(準2級以上5名合格)6/14・希望者受験(2級0名・準2級6名合格)() GTEC 移行で評価指標が不適だった</p> <p>イ 「自分の考えをまとめたり発表する機会がある」60%/+10% () 授業観察では、6~7割他校授業観察4校実施 会議室に移動式の長机や椅子を完備 AL ルームとして利用 授業力向上PT などの成果。さらなるレベルUPを</p>

<p>2 自己を確立し未来を切り開く力の支援・夢や目標を持った生徒の育成</p>	<p>(1)志学、道徳教育、キャリア教育、人権教育等について、「志を持ったよき社会人」として、志学・総合学習実施計画を推進する。</p> <p>(2)進路指導の充実を図る。</p> <p>ア チャレンジ講習（毎週7限）を有効活用し、進学希望者に対する講習会を分掌・教科が主導し、個々の目標や能力に応じた進学講習体制の充実により生徒の進路実現に取り組む。</p> <p>イ 就職希望者に対しての指導を強化し希望先への内定率100%をめざす。</p> <p>ウ 進路指導部が中心となりキャリア教育を見直し、3年間のトータルデザインを確立する。</p> <p>(3)規律ある高校生活の実現をめざし、「人間力」を育成する。ルール、マナーの遵守と規範意識の醸成を図る。</p> <p>ア 「薬物乱用防止」「情報リテラシーの育成」特に大麻等の乱用防止、情報モラルの育成に努める。</p> <p>イ 挨拶・服装・頭髪・装飾品等の指導強化に取り組む。指導にあたり学年間格差をなくす。</p> <p>ウ 遅刻者数の減少に取り組む。</p> <p>(4)「元気な学校づくり」特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識意を高める。</p> <p>ア 部活動の魅力や意義を伝え、部活動への参加・加入率を高める。</p>	<p>(1)学年毎の計画から、学校全体として3年間を見通した計画へ発展させる。港マップの有効活用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度年間行事予定作成前に志学・総合学習実施計画を完成させる <p>(2)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ講習の具体的なトータルデザインを進路が作成し教科が協力して実施。(進路指導部と教科・学年との連携した進学に向けての講習実施のために進学主担者がイニシアチブをとる。) ・自習会の実施・土曜講習・長期休業中講習の実施など放課後や土曜日の有効的な利用にも取り組む。(1年次後半から進学講習を実施)進路・学年・教科の密なる連携 ・学習チューター・進学主担・学年主任・進路主担の連携を強化 ・自習室の確保と自習の計画と運営 ・勉強合宿の企画や大学見学や大学施設での自習や講習会の企画 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」を柱にキャリア教育を展開し、生徒の進路意識、積極性、自立心を育み進路を保障。 ・1年次から進路情報を提供し、進路意識の向上を図る(活躍する卒業生や大人への聞き取りの企画・実施) ・同窓会との連携。生徒就労意識を育てる。 ・インターンシップや応募前職場見学の実施 ・就職講座・公務員講座・看護医療講座などを企画し進路の各係りが運営実施。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月12月の考査後の期間に、有効な進路イベント導入 ・3年間の進路指導マップを全学年で共有し活用。(合格者登校/進路オリテ/進路説明会などの場面で活用) ・3年生になるまでの早い時期に進路希望未定者と目的意識の薄い専門学校希望者へのアプローチを強化。 <p>(3)厳しく鍛え暖かく寄り添う生徒指導を推進</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教室やSNSなどインターネットの使用についての講習などを企画 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が率先して笑顔で挨拶を行う。 ・指導に齟齬が出ないよう、生徒に守らせるべき最低限のルール(港スタンダード)を徹底し、組織的・統一的な指導を行う。 ・担当者格差・学年間格差が出ないように連携を密に取り、全教職員が一致協力して生徒指導に当たる。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解に努め、家庭連絡や生徒への声かけを心がける。 ・基本的な生活習慣の確立 ・朝学習導入による変化に対応して、担任・学年生指の指導の部分で新たな指導方法を検討実施し、生指部本体での指導数を食い止める。 <p>(4)必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝え、部活動への参加・加入率を高める。 ・クラブ体験期間の工夫、「クラブ加入率を向上させるための手立て」を考える。働きかけ時期(5月中旬の中間テストまで)も工夫する。 ・港カップの実施や、スポーツ講演や講習会の実施 ・地域連携を強め地元中学生との連携を強める ・部活動連絡会やリーダー講習など一体感連帯感の醸成 ・部活動で頑張る生徒や成果を紹介し存在感を高める工夫 	<p>(1) 検討の進捗状況 (H30:30回) 30回 港マップの作製進捗状況</p> <p>(2)ア 講習などの実施頻度 (H30の2倍の量と期間) チャレンジ講習の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部からの新しい取り組みや発信と継続、(H30、6項目) 7項目に ・4年制大学への進学者 (H30:30%) 40%に ・4年制大学・短大への進学者 (H30:40%) 50%に ・公募推薦等受験、一般受験での合格率を高める(H30:13%、4%) (20%、10%) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次就職試験決定率 (H30:72%) 80%に ・学校斡旋就職決定率 (H30:100%) 100%に ・インターンシップ人数 (H30:70人) 75人 ・応募前職場見学参加人数 (H30:72人) 80人 ・就職講座実施回数 (H30:12回) 14回 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未決定者や専門学校進学割合を減少させ4年制短大進学を増加 その他(H30:17%) -7%に 専門学校進学(H30:36%) -6%に 4大短大進学(H30:40%)+10%に <p>(3)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習や研修の実施状況 (H30:各学年2~3回実施) <p>イ</p> <p>学校運営協議会での意見、外部(来校者)評価</p> <p>保護者「生徒指導の方針には共感できる」(H30:68%) 75%</p> <p>生徒「先生は協力して生徒指導に当たっている」(H30:44%) 50%</p> <p>ウ 遅刻者数 H30(5329件) 3000台へ 25%減</p> <p>(4)ア 部活動加入率 (H30:58%) 60%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ体験行事の回数を増やす(H30:10日) 12日 ・部活動連絡会やリーダー講習の実施数(H30:10回) 12日 ・港カップ杯イベント、スポーツ講演や合同練習、講習会の実施数(H30:10回) 12日 	<p>(1) 将来構想会議...30回実施 総合学習計画と年間行事予定作成をリンクさせ検討時期を早める</p> <p>(2)ア</p> <p>チャレンジ講習などの実施頻度</p> <p>1年...英数国週1回で15~20回 2年...英数国理で週1回で20回 3年...英数国理で週1~2回で40回 長期休業中講習</p> <p>1年...英数国5回程度 2年...英数国理で15回程度 3年...英数国理で15回程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい取り組み 6項目 奨学金申込の省力化・指定校推薦申込方法改定・進路閲覧質のリニューアル・社会人マナー講座実施・進路希望調査・大学見学会の実施 ・継続した取り組み 成績上位者抽出面談、SS振り返り会、校内模試、進路HR、進路ニュース発行、保護者向け進路説明会など ・4年制大学への進学者 ...35%(+5%)() ・4大短大への進学者 ...42%(+2%)() ・公募での合格率...15%() 一般での合格率...10%() <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次就職試験決定率...76.9%() ・学校斡旋就職決定率...100%() ・インターンシップ参加人数(50名)() ・応募前職場見学参加人数52名() ・就職講座実施回数...16回() <p>ウ</p> <p>その他 6%(-10%)() 専門学校進学 46%(+10%)() 4年制短大進学 42%(+2%)() 就職 6%(-1%)()</p> <p>(3)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物・SNS 進路関係の講習や研修各学年2~3回実施() <p>イ</p> <p>肯定的評価</p> <p>「共感できる」 64%/-4%()</p> <p>「協力して生徒指導に当たっている」 41%/-3%()</p> <p>ウ</p> <p>遅刻者数 3143件 41%減()</p> <p>(4)ア</p> <p>部活動参加率 54%/-4%()</p> <p>1年生56%は平均並み、3年生女子が35%と伸びない。男子66% 女子46%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ体験入部の回数を10日() ・部活動連絡会10回以上実施 部活動講習会2回実施() ・港カップ杯イベント1回 中学合同練習会延べ3部9回()
--	--	---	---	--

<p>2 自己を確立し未来を切り開く力の支援・夢や目標を持った生徒の育成</p>	<p>イ 学校行事で「人を育てる」</p> <p>ウ 「港高校部活動の在り方に関する方針」に則り合理的でかつ効率的・効果的な活動が行えるよう取り組む。</p> <p>エ 校内美化に努め、さらに快適で過ごしやすい環境づくりを進める。</p> <p>(5)不安や悩み、障がい等のある生徒への支援の充実</p> <p>(6)「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む</p> <p>ア 「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ</p> <p>イ 「グローバル人材の育成」</p>	<p>イ 生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定。 ・学校行事への生徒の取り組みに工夫をし、「達成感・成就感」を体感できるものにする。</p> <p>ウ ・活動計画を示し、活動結果の検証を行い1年間のトータルで、104日の部活動休業日を確保する</p> <p>エ ・普段の清掃活動や大清掃の統括を保健Gが行い、特に行事前後の清掃や、学校説明会などの清掃時には、重点を置く。</p> <p>(5)教育相談体制や支援教育体制の充実、保護者や関係機関との連携を強化し、情報共有に努め、必要な生徒に適切な支援・指導を行う。 ・SCや支援教育コーディネーターや学校生活支援カードを有効に活用 ・教育相談会議や生徒のケース会議の実施。その情報の校内の共有。支援方法や体制を確立。</p> <p>(6)</p> <p>ア 人権尊重の社会づくりを進めるためにあらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的推進。 ・3年間を見据えた人権教育マップの作成。</p> <p>イ 文化や習慣の違いを尊重する心を育むとともに、コミュニケーション能力の育成をはかる。 ・公私連携校である樟蔭高校との交流をさらに発展する。 ・国際交流事業である合同ツアーに語学・異文化体験研修の色合いをプラス ・交流のPRや広報につとめ、参加者をさらに増やす。 ・交流の参加生徒による報告会、写真展示等を全校集会・文化祭に実施し、生徒の意識の向上を図る。 ・大阪観光局や国際交流センターへの申し入れなどで、海外からの修学旅行等を受け入れも検討する。 ・国際交流委員会を活発に機能させる。</p>	<p>イ ・「学校に行くのが楽しい」を (H30:64%) 70% ・「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」(H30:67%) 70%</p> <p>ウ ・全ての部活動で休業日確保</p> <p>エ 「清掃活動はきちんと行われていると感じる」(H30:80%) 85% 生徒「清掃活動はきちんと行われている」(H30:52%) 70% 教員「生徒とともに実施し、担当の区域はきれいに保てており清掃活動はきちんと行われている」(H30:44%) 70%</p> <p>(5) ・教育相談委員会開催回数 (H30:25) 25回 ・修学支援会議開催回数 (H30:11) 10回 ・SSWの活用 (H30:2) 4回</p> <p>(6)</p> <p>ア 「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」(H30:64%) 70%</p> <p>イ ・海外交流参加者(H30:0)5名 ・国際交流委員会回数(H30:5)7回 ・校内交流会回数 (H30:1) 2回 ・ツアー企画数 (H30:3) 3回</p>	<p>イ 「学校に行くのが楽しい」60%/-4% () 「行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」 69%/+2% () 劇団四季のリトルマーメイドの鑑賞行事を新たに実施。110周年に向けての校外行事の練習ができた。</p> <p>生徒会活動の活性化 () ・制服(カーディガン)規制の取り組み ・校内携帯電話の取り扱いの取り組み ・合唱コンクール審査の取り組み ・痴漢防止バッチ活動</p> <p>ウ ・全ての部活動で休業日確保 ()</p> <p>エ 「清掃活動はきちんと行われていると感じる」 75%/-5% () 「清掃活動はきちんと行われている」 54%/+2% () 「生徒とともに実施し、担当の区域はきれいに保てており清掃活動はきちんと行われている」 55%/+11% ()</p> <p>(5) ・教育相談委員会 22回 () ・修学支援会議開催 16回 () ・生徒相談の環境づくりのため教育相談室にエアコン設置。 SSWを校長マネジメント予算で導入4回 ()</p> <p>(6)</p> <p>ア 「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」 62%/-2% ()</p> <p>イ ・海外交流参加者 5名 () ・国際交流委員会開催数 5回 () ・校内交流会回数 1回 () ・ツアー企画数 3回 () ・交流の参加生徒による報告会 2回 同窓会・PTAなどの連携からの、国際交流基金で支援</p>
	<p>(1)学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。「コア会議」、運営委員会が企画検討の中心となり学校経営戦略の具体化を推進。</p> <p>ア 各分掌が主導で校務にあたり、プロパー・ヘルパー制という考え方は廃止。学年は学年団として機能し担任団という考え方は廃止する。</p>	<p>(1) 組織力の強化 ・「コア会議」を中心とした機動力のある組織運営 ・H31年度の授業形態の変更に対する準備を各教科・分掌・学年で考え、やれることから取り組んでいく。 ・H31年度の校時の変更に対する朝の生徒の流れの確立、勤務時間変更などの変化に対する対応</p> <p>ア ・各分掌内での仕事の役割分担の見直し、「担任だからできないとか、副担任だからやらない」を改める。 ・担任会を縮小し、学年団会議を拡大、担任団から学年団</p>	<p>(1) ・コア会議開催回数 (H30:30回) 30回 ・学校教育自己診断(教員) 「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」 「学校の教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」 (H30:33・58%) 50・60%</p> <p>ア 全ての学年で学年団会議を行う</p>	<p>(1) ・コア会議...30回実施。課題を検討() 「港高校を考える会」...1回。スクラップ事項の検討。 「決める会」...2回。H31の大改革の次の課題を検討 ・「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能」 45%/+12% () ・「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている」 大きく肯定感がUP 66%/+8%()</p> <p>ア 学年団会議の開催回数 1・2年は全ての学年会議・3年は1月に1度学年団会議 ()</p>

<p>3 学校運営体制の強化・改善 信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>イ 各分掌は継続性・連続性のある3ヶ年計画を作成し、関係協力部・学年と協力して校務にあたる。</p> <p>ウ 「スクラップアンドビルド」の実践 実情に応じた、校務体制や学校運営組織を再構築し、仕事の効率化につなげる。</p> <p>(2)「頼りにされる校務力」の育成 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る</p> <p>(3)広報活動と地域連携の充実</p> <p>ア ホームページの適時更新などできるだけ多くの情報発信に努める。中学校訪問を継続し広報活動を活発にする。</p> <p>イ 地域連携を推進し、地域から愛される学校をめざす。創立 110 周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携態勢を推進していく。</p> <p>(4) 教職員の長時間勤務の縮減</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員数の減少を見込んで、各分掌が校務の取り組み方を考える。 ・分掌・学年マネージメント表を有効に使い関係協力部との協力体制を考察し、今までにない役割分担を考える。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年先・5年先を見通した校舎内施設の利用方法考察 ・校務分掌の改編とそれに伴う内規の整備 ・生徒指導Gと自治会Gと保健Gの連携 ・教務内規の変更と修正 ・会議の減少化や短縮化への工夫 ・教員研修の縮小化への工夫 <p>(2)校内研修とOJTの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベテラン教員による経験の少ない教職員への育成参加 ・メンターチームによる初任者への研修や支援を行う。 ・経験の浅い教職員への生徒・保護者対応、生徒理解をテーマとした校内研修の設定、 ・意見交換の場の設定「どんな学校にしたいのか」「そのために何ができるか、何をしなければならないか」を主体的に考察 ・提案型の学校運営参加のための、グループワークなどで意見提示ができる機会の設定 ・先進校視察や授業交流の実施 <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの新たな活用方法を工夫・検討し広報活動を充実する。更新回数を増やし、閲覧者を増加させる。 ・中学校への出前授業の実施。 ・広報活動の充実・・・年間の戦略計画を立て、中学校へのアプローチを学校説明会・合同説明会とともに考える。 ・新たな広報グッズの作成や管理・予算立て。 ・広報活動を総務部の分掌の仕事としマニュアルを作成。 ・生徒による中学校訪問の企画等新しい企画を考察。 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の学校への関心を高め、学校との連携を強める ・保護者と生徒の学校への意識の差を縮める <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動の実施 ・老人会などとの地域連携・地域のフェスタへの参加・小中学生との部活動交流などの新しい取り組みなど考える ・挨拶運動、校外外美化活動の継続実施、港区役所、波除町会、波除保育園、波除小学校、市岡東中学校（他地元中学校）と連携した企画を実施する。 ・110周年記念行事への準備委員会の設置と企画検討 <p>(4)時間外労働縮減に向けた取組みの促進、勤務時間管理及び健康管理を徹底。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノー残業デー、ノークラブデーの徹底 ・労働安全衛生委員会で時間外労働の実態管理。 ・産業医や管理職との面接の実践。 	<p>イウ</p> <p>学校教育自己診断（教員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」 (H30: 37%) 50% ・「学校の教育活動について、教職員でよく話し合っている」 (H30: 70%) 80% ・職員会議の減少化 月2 1 ・教員研修の減少化 年5 3 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンターチーム研修実施回数 (H30: 2回) 5回 ・教職員研修の実施回数 (H30: 3回) 3回 ・初任者校内研修 (H30: 23回) 25回 ・先進校視察実施回数 (H30: 6校) 7校 ・港高校を考える会、R2年度を決める会の実施 (H30: 1回) 2回 <p>(3)</p> <p>ア 更新頻度 (H30: 1/3日) 2日に1回</p> <p>保護者「 を閲覧することがある」(H30: 51%) 60%</p> <p>中学校への出前授業 (H30: 4回) 5回</p> <p>新規の企画数 (H30: 1企画) 2企画</p> <p>「広報活動に取り組み、必要な情報は生徒・保護者・地域に向かって発信している」(H30: 79%) 80%</p> <p>学校教育自己診断アンケートの回収率を高める（保護者） (H30: 56%) 70%</p> <p>学校教育自己診断アンケートの「学校へ行くのが楽しい」の肯定感の差を是正（教職員・保護者・生徒の差 H30: 77%・84%・67%） 15%程度に</p> <p>イ 実施企画数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動 H30の2回 3回 ・2～3企画 ・地域連携活動 H30の2回 3回 ・110周年記念行事への準備委員会開催回数・・・5回実施目標 <p>(4)時間外労働時間を10%削減 (H30: 80時間以上 のべ87人 100時間以上 のべ51人 総残業時間 27465時間 月平均 2280時間 1人あたり月平均 35時間)</p> <p>(H31 80時間以上 のべ65人 100時間以上 のべ25人 総残業時間 25000時間 月平均 2200時間 1人あたり月平均 30時間)</p> <p>労働安全衛生委員会実施回数 H30: 12回 12回</p>	<p>イウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教職員の意見が反映されるような仕組みがある」43%/+6% () ・「教育活動について、教職員でよく話し合っている」85%/+15% () ・空き教室の利用をコア会議で考察 ・内規をコア会議で検討 ・教務内規の変更 ・職員会議の減少化 (月1回)() ・教員研修の減少化 (年3回)() <p>(2)</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンターチーム研修実施回数 2回 () ・教職員研修の実施回数3回 () ・新採教職員研修の実施回数 26回 () ・先進校視察実施回数 4校 () ・港高校を考える会 1回・R2年度を決める会 2回 () <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更新回数 210回 H30: 197)() 「 を閲覧することがある」 45%/-6% () ・中学校への出前授業 4回 () ・新規の企画数 3企画 () 塾対象説明会・冬休み中学校訪問 地元集中への分析会・対策会 ・「広報活動に取り組み、必要な情報は生徒・保護者・地域に向かって発信している」 74%/-5% () ・保護者アンケート回収率 56%/±0% () ・「学校へ行くのが楽しい」の肯定感の差を是正 77%・85%・60%で25% () 意識の差が大きな課題 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動による地域清掃活動の実施（サッカー）2回 () ・波除小学校見守り活動の実施・港警察との連携でランニングパトロール・生徒会役員による挨拶運動で3回 () ・110周年準備委員会6回実施、組織構築と規約作成 () <p>(4)</p> <p>(R01: 80時間以上 のべ42人 () 100時間以上 のべ13人 () 総残業時間 24439時間 (27465/-11%) () 月平均 2036時間 () 1人あたり月平均 32時間) ()</p> <p>月残業 45時間の意識育成が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働安全衛生委員会 12回 ()
--------------------------------------	---	---	---	--